

日本GLP広島Ⅱプロジェクト

GLP Japan Hiroshima II Project

No. 08-005-2023作成

新築

工場・物流施設

発注者	広島Ⅱロジスティック特定目的会社	カテゴリー				
設計・監理	五洋建設株式会社中国支店一級建築士事務所 PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO.LTD.	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	五洋建設株式会社中国支店	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

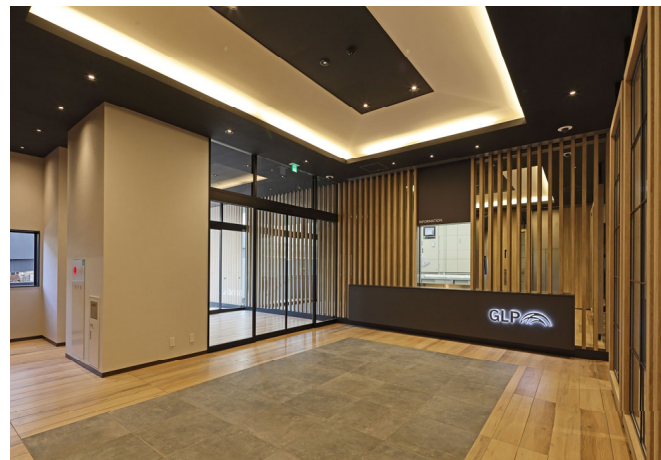
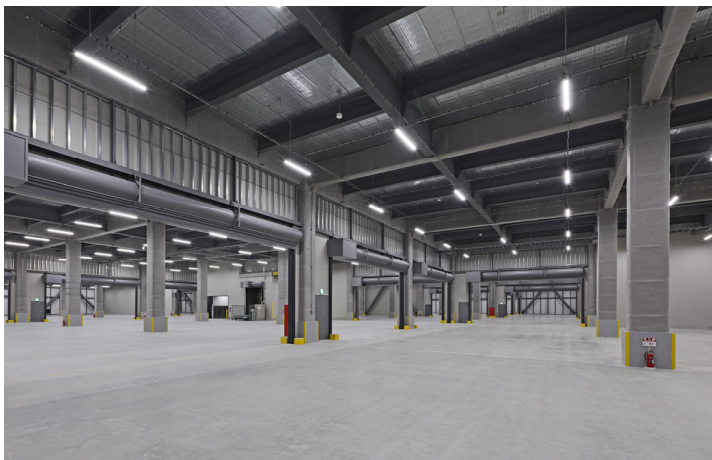
「ナッジ手法」を取り入れたマルチテナント型物流施設

計画概要

本計画は、日本GLP株式会社（以下、日本GLP）が全国的に展開するマルチテナント型物流施設シリーズの一つであり、日本GLPとしては広島初の新築案件である。敷地は、広島港や広島市街地、高速ICに近く、物流拠点としても労働環境としても利便性の大きい土地である。施設構成やデザイン、環境配慮、BCPなど多様な視点で、カスタマーやワーカーに対して訴求性の高い建築計画に取り組んでいる。

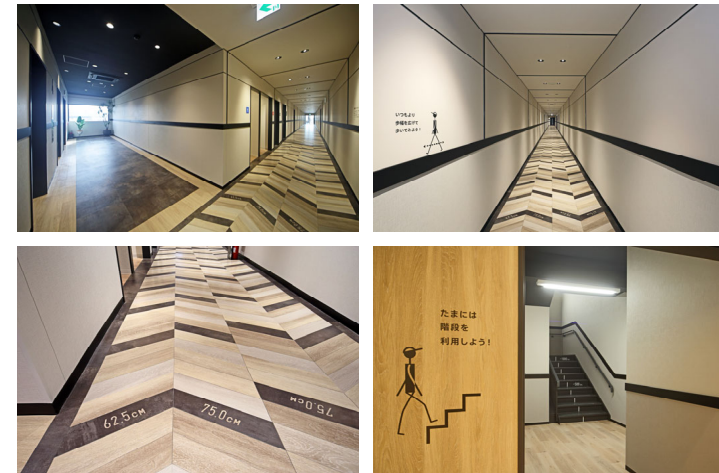
施設構成

建物構成としては、多様な運用形態を想定し、1～4階の内、1・3階にトラックバースを配置し、計4カスタマー対応可能としている。構造ブレースをバースのない2・4Fに集約する構造計画とし、作業利便性に配慮している。また24時間荷物受け入れが出来るよう、置配バース（ドライバーが夜中でも荷物を置いていけるバース区画）を取り入れた。4階には、物流施設特有の大きな階高を利用して、メザニン付きの休憩室を配し、従業員の快適性向上や健康促進を図っている。デザイン面では、地域性を広く取り入れる他、行動経済学の知見に基づき構築される「ナッジ手法」を採用している。なおナッジ手法を含めた内装デザイン計画に関しては、千葉大学の原裕介特任准教授が監修を行っている。



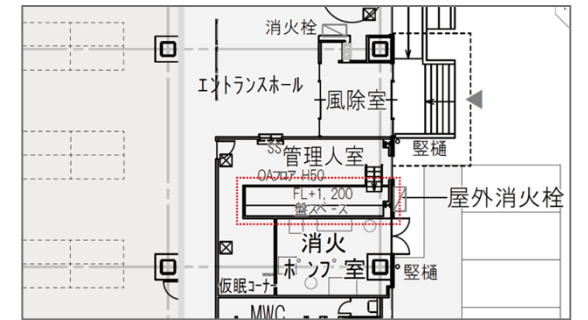
デザイン計画 -地域性・ナッジ手法-

外装では瀬戸内海のきらめく水面をイメージし、外装パネルの色調やレイアウトを計画している。共用部の什器や内装では、宮島等で広く知られる、広島の木工文化と調和するよう、木のテイストを基調とした設えとした。また牡蠣殻塗装やデニム調クロス、モミジ（植栽）等、多様な形で地域性を取り入れたデザイン計画としている。休憩室や廊下、階段室等の共用部は、上述のナッジ手法を取り入れた内装・サイン計画であり、施設利用者が自発的に健康促進を図る選択を行う事を後押しする（nudgeする）狙いとしている。



BCP対策

敷地は海岸に面しており、高潮に対しては30年確率規模を想定したBCP計画としている。管理室内では小上がりを設け、集中制御盤や防災盤を想定浸水レベルより高い位置に設けている。施設内の主要機器に対して、カスタマー用、共用ともに保安負荷を各々設定し、非常用発電機による保安電源供給を可能としている。また4Fには、飲料水等の保管を想定した備品庫を設けている



環境配慮設計

屋根面に広く太陽光パネルを設置し、施設内での消費電力全てを太陽光発電で賄う事ができる計画としている。また、高効率空調機、照明のスケジュール制御・人感センサー制御、断熱性の高い外壁材、Low-Eガラス等の採用により、総合的に環境負荷の少ない施設作りを達成しており、『ZEB』認証とCASBEEのAランク認証を取得している。



設計担当者

統括：川田貢／建築：林大地／構造：加藤峻／設備：山手健史、鈴木道徳、山口裕之、青木涼

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 2 耐用性・信頼性（仕上材や設備機器の補修・更新間隔への配慮）
- Q3. 2 まちなみ・景観への配慮（外観計画、地域性をモチーフとした内装デザイン）
- LR1. 2 自然エネルギー利用（太陽光発電）
- LR2. 1 水資源保護（節水型器具の採用）
- LR3. 3 周辺環境への配慮（適切な緑化計画、駐車場や斜路の確保）

建物データ	
所在地	広島県広島市
竣工年	2023年
敷地面積	23,106㎡
延床面積	49,792㎡
構造	鉄骨造
階数	地上5階

省エネルギー性能	
BEI（通常の入力法）	0.00
BELS ★★★★★	『ZEB』

CASBEE評価	
Aランク	
BEE=1.5	
2021年度版	
第三者認証	

